



**【教育目標】** 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成  
 ~~~ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ~~~

子どもたちの作品から

6年1組 夏休みの出来事・読書感想文

夏休みの出来事 6年1組 高杉 昌汰

僕はこの夏休みに一時帰国しました。その際に京都の金閣寺へ行きました。名前の通り金色なので、かなりハデで光っていました。思ったより歩く道は長かったです。ところどころにツボが道から少しはなれたところにあり、お金を投げ入れている人がいましたが、むずかしそうでした。大きな池にはコイとアメンボがいました。たまにアメンボがコイに食べられそうになっていました。一カ所、コイがたまっている場所があり、金色のコイが何びきかいました。アメンボも大きかったです。金閣には関係ありませんが、行った後に食べたかき氷もおいしかったです。



夏休みの出来事 6年1組 田原 侑来

日本に一時帰国し、父と祖母とおば2人で出雲大社に行きました。入った所には、うさぎの像がたくさんあり、1つ1つまつボックリが置いてありました。1つ置かれていなかったの、おばと置きました。他のところにもたくさんありました。その中で私が好きだったうさぎは、後ろから見たら、拝殿を見ているだけかなと思っていたけど、横に行って顔を見てみると拝殿に向かって手をあわせて拜んでいました。すごくかわいかったです。うさぎが拜んでいた拝殿は、大国主大神がまつられています。この拝殿は1744年建立されたもので、大社造で国宝に指定されています。神社建築の中では日本一を誇り、高さは約24mです。なぜうさぎがたくさん出雲大社にいるかということ、いなばのしろうさぎのお話のうさぎを大国主のみことが助けたことからえんがあり、出雲大社にうさぎの像が設置されているそうです。またいろいろな神社に行っ、いろいろな事を知りたいです。



夏休みの出来事「博物館のような図書館」 6年1組 スパークス 美頼

7月10日は晴れていた日でした。私は母と一緒にインディアナポリス中央図書館へ行きました。この図書館の事について書きたいと思った理由は、とても大きい図書館で、まるで博物館のようだからです。この図書館は6階まであり、約43万冊以上置かれています。この図書館は、1917年10月に建てられました。設計者はポールクレットさんで、この建物はアメリカで一番素晴らしい図書館であると表彰されています。ちなみに私はこの作文を、「ニナ・メイソン プリアム インディアナポリス スペシャルコレクションルーム」で書いています。この図書館は、とても素敵な図書館なので、あなたも時間があったら行ってください。同じ気持ちになるとと思います。

夏休みの出来事 6年1組 池田 真彬

「ヤッター！」カナダに旅行に行くことになりました。初めていくところです。インディアナから車で約10時間かかるそうです。その日を首を長くして待ちました。ついにその日が来ました。「ナイアガラの滝！」ナイアガラの滝を近くで見たり、船に乗ってナイアガラの滝を見て、裏側まで見ました。滝の近くで見ると、さすがに大迫力です。ナイアガラの滝は、写真と全然違いました。また今度も行ってみたいと思います。

夏休みの出来事 6年1組 出口 華蓮

日本でスカイツリーにのぼりました。ホテルから電車に乗って行きました。たくさんのいろんな店がありました。エレベーターであっというまに上に着きました。とても高くてびっくりしました。上から見ると、走っている車がおもちゃのように見えました。ずっと外を見ていると落ちそうな気分になりました。チケットを買って、さらに高いところにも行きました。写真をとる事もできて、いい記念写真になりました。エレベーターで下において、それからスイーツバイキングに行きました。たくさんのデザートを食べました。またスカイツリーに行きたいです。

☆9月の目標

☆安全の「あ」  
 みんなのくらし

※廊下を走らない  
 ※静かに移動しよう

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り 22号
- 2 後期教科書配付

…主な日程…

- ・9月24日 運動会
- ・10月1日（予備日）



### 夏休みの出来事 6年1組 橋本 佳奈

約3週間、日本の学校に通いました。日本の学校は6年生は6時間目までであるので、少し遅く感じました。6年生は3人〜6人である係がありました。係ごとにちがう仕事をして、クラスをより仲よくしていこうということです。私が学校にいる間、イベント係の人たちが3回もイベントを作ってくれました。イベントが行われる日が雨だと、体育館でドッジボールをしました。もし晴れていたら、赤と白のチームに分かれるか、男子と女子のチームに分かれて、ふえおにをしました。でもおにの人が多すぎるので、イベント係の人たちと先生がおにになりました。ドッジボールでは赤と白に分かれましたが、と中で先生がもう一つボールを追加したので、とてもむずかしいドッジボールになってしまいました。学校最後の日には、みんなから手紙の束をもらいました。とても嬉しかったです。日本の学校はとても楽しかったです。

### 夏休みの出来事 6年1組 田中 柊羽

7月11日ぼくと家族は東京ディズニーランドに行きました。初日はディズニーシーに行きました。その日のディズニーシーは15周年になっていました。テーマパーク全体に15周年のかざりがかざってありました。開園したしゅん間に、みんながいっせいにトイストーリーマニアのファストパスを取りに走りました。湿気があったのでものすごく暑かったです。テーマパークに熱中しようで倒れている人もいました。他にも、いろんな乗り物に乗りました。12日、ディズニーランドへ行きました。そこで一番好きなビッグサンダーマウンテンに、ファストパスを取って乗りました。これでディズニーランドに来たのは7回目くらいでした。ディナーはショーが見られるハワイアンディナーへ行きました。トロピカルジュースがおいしかったです。13日には15周年最後のディズニーシーへ行きました。ランチはヴォルカニアというところに行きました。今回のディズニーはとても楽しかったです。なぜかと言うと、15周年限定のショーやパレードが見られるからです。日本に帰ってきた時は、また行きたいです。

### 読書感想文「グスコブドリの伝記」を読んで 6年1組 秋本 登太

「グスコブドリの伝記」は、伝記と書いてあるのにちゃんと物語になっている、とてもおもしろく感動する話です。この話に出てくるブドリという少年は、小さいころは森で平和に暮らしていました。ですが、ある寒さによる飢饉で親を失い、妹もさらわれてしまいました。一人ぼっちのブドリは、いろいろなところで働きながら旅をします。この話で最も心に残った場面は、何といっても最後の章です。ブドリは、火山の爆発などを調査する「火山局」に勤めていました。2年以上平和でしたが、また、ブドリが小さかった時に住んでいた森をおそった時のような、おそろしい寒さが再びブドリの森をおそいます。そこでみんなは、火山を爆発させて気候を暖かくする方法を思いつきます。しかし、火山を爆発させる人は、どうしても逃げられません。その役を、ブドリは自らやると言い出します。他の人達のために自分の命を捨てる、という事は、なかなかふつうの人には出来るようなことではありません。そのブドリの勇気とやさしさに感動しました。宮沢賢治の作品を読んだのは、これが初めてです。この作品がとてもよかったです。他の賢治作品も読んでみたいです。賢治の作品が世界中で読まれたら、とてもうれしいです。

### 読書感想文「注文の多い料理店」 6年1組 大幡 蘭

「注文の多い料理店」を10分間読書にお勧めします。短い時間に気軽に読め、10分間という短い間にハラハラドキドキできるからです。「注文の多い料理店」というタイトルを聞いた時、たくさんの方が注文を次々として店の人が慌ただしくなる話だと想像していました。しかし読んでみると、実際の話は全く違いました。自分が注文するのではなく、自分自身が「してください。」といろいろと注文されるのです。結果はハッピーエンドだけれども、悲しい場面もありました。この話には、二人の若い紳士が登場します。この二人が自分たちが食べられることに気付いたところが一番好きです。二人の紳士は一つひとつの注文を素直に聞いていたけれども、途中で自分たちが食べられることに気付いた時は私がおどろきました。きっと二人の紳士もおどろいたでしょう。まさか自分達が食べられるなんて、私は想像もしなかったです。さらに、店のオーナーがうまいことだますところも好きです。二人の若い紳士が早く食べたいと思った時、看板に「料理はもうすぐできます。15分とお待たせしません。すぐ食べられます。」という意味を、初めはやっと食べられるんだと思っていたけれど、本当は自分たちが15分と待たずに食べられるという意味だったことに気付きました。店のオーナーにすっかりだまされてしまいました。私が二人の紳士だったら、きっと足がすくんでなにも出来ないと思います。しかし、この二人の紳士は足がすくまずに帰れたので、安心しました。日本語の使い方ひとつで、食べる人が食べられるという意味になってしまうところが面白かったです。この本は、日本語の使い方をうまく利用していると思います。

### 読書感想文「注文の多い料理店」 6年1組 山内 絢加

「注文の多い料理店」は、初めて聞いたときは誰でも注文する人が多い料理店だと思います。私はこの題名を聞いて、注文する人が多い、人気のお店のお話だと思いました。「注文の多い料理店」は、若い男の人二人が主人公で、西洋料理店の中に入って、どんどん調理されていって、顔に牛乳のクリームをぬったり、頭から酢をかけたりして、最後に西洋料理店の親方に食べられそうになった、というお話です。このお話の中の、つぼの中のクリームをぬった後から、私は、この二人はもしかしたらそうかもしれない、という理由で行っていたんだと分かっていたけれど、「牛乳のクリームをぬってください。」と書いてあったら、私だったら「なぜクリームを顔や手足にぬらなくてはいけないのだろう。店の人が部屋の温度を調整するし、クリームをぬったのに香水を顔にかけなくてはならないのだろう。」と思うと思いました。最後に、このお話を読んで、食べる方の料理店ではなく、食べられる方の料理店には入らないように気を付けようと思いました。





